

科目名： 特別研究（世論と公共政策）
Public Opinion and Public Policy
単位： 1 単位（7. 5 コマ）
担当教員： 堀内勇作（オーストリア国立大学上級講師） yusaku.horiuchi@anu.edu.au
<http://www.horiuchi.org>
授業についての問合せ： 魅力ある大学院イニシアティブ（松繁、栗栖）
2007年3月20日、21日、22日 集中講義
演習室 B（OSIPP 棟）

日時： 本講義では、世論に関する研究動向を把握し、政治・政策過程における世論の果たす役割について学ぶ。具体的には、メディア（特にテレビ）による世論への影響、世論の公共政策決定への影響、外交政策に関する国内及び国際世論の三点に焦点をあてて、世論に関する理論的理解を深めていくことを目的とする。さらに、最近の世論研究において使われている研究方法（主に統計的手法）についても解説することで、政治学における実証的研究方法へのフロンティアをも紹介したい。専門分野を問わず、積極的にご参加ください。

授業要件： 課題となる文献を読み、ディスカッションの準備を行なうこと。使用言語は、日本語が中心、必要に応じて英語を使用。
授業計画： 毎回、3本の英文学術論文（初回だけは更に1本の短い論文）を読み、各論文における、(1) リサーチエクエーションおよびその重要性、(2) 検証仮説、(3) 分析データ、(4) 分析手続き、(5) 分析結果、(6) 政策インプリケーションについて、理解・議論していく。受講生は、上記の7点を簡単に整理したメモ（提出不要）を持参すること。また、論文の内容を理解するだけでなく、新しい研究の可能性について積極的にアイデアを提示し、ディスカッションに参加すること。具体的には、日本あるいは他の国や地域における世論、メディア、政策過程の現状を踏まえ、どのようなリサーチエクエーションを、どのようなデータを使って検証することで、学術的にも政策的にも重要な研究ができるか余地があるかについて、先行研究を批判的に読みながら、積極的に考えていくこと。

課題文献： 別紙参照。
成績評価： X X 月 X X 日までに、A4用紙5枚程度の、リサーチプロポーザルを提出すること。（リサーチプロポーザルの意義や書き方については、講義の中で説明する。）テーマは、本講義で焦点をあてる三つのテーマのうちの一つを選ぶか、世論に関する何か別のテーマを選ぶこと。リサーチプロポーザルでは、(1) リサーチエクエーションは何か、(2) それはどのような点において（学術的あるいは政策的に）重要なのか、(3) 関連する先行研究ではどのような議論があり、それらの先行文献に対してどのような貢献をすることが期待されるのか、(4) 検証仮説（リサーチエクエーションに対して予想されるアンサー）は何か、(5) どのようなデータや手法で同仮説を検証するのか、という5点について、分かりやすく説明すること。実際に、研究助成金に応募するつもりで、リサーチプロポーザルを作成すること。